

手書きの良さ、書く喜びを伝えたい

「全国からの作品とともに、自分の作品が展示され、感謝と嬉しさでいっぱいです」と笑みを広げるのは、昨年10月18日から21日まで開かれた第37回全国健康福祉祭(ねんりんピック)岐阜大会美術部門に岩手県代表として書を出品した関山幸子さん。

※『教行信証』に書かれた、教えの内容を凝縮した漢文

常を願わなければ。との思いに突き動かされて「震災の年に仕上げた。選考会への出品は、書の師に勧められたこともあり「戦争の絶えない今だからこそ、見てもうえればいいかなって」とその経緯を語る。

書道は「小学生の時に、母から手ほどきを受けて始めた」と言

う関山さん。「運動会でも習字でも、賞を取るとノートや鉛筆をもらえてうれしかった」と當時を思い出す。高校まで続けた書道は、進学や就職などで一度離れたものの30代で再開。「思い出深いのは、京都での昇段試験に臨む際に、亡き夫に何時間

も墨をすつてもらつたこと」とこれまでを振り返る。

昭和60年に夫の実家がある旧西根町に移り住むと、周囲から「子どもたちに教えてほしい」と請われ、62年4月



心新たに、書初めた作品を掲げる生徒たち(1月6日)

全国健康福祉祭(ねんりんピック)岐阜大会に親鸞の「正信念佛偈」を記した書を出品

日本習字平館教室 代表

関山 幸子さん(雅号 翠月)

せきやま・さちこ 83歳 共新

奥州市出身。結婚を機に宮城県職員を退職。夫の転勤とともに県内各地で暮らした後、昭和60年に旧西根町へ。62年に日本習字平館教室を開く。6年前から平館高でも書道を教えていた。尊敬する人は「3月で104歳になる母。誰にでも分け隔てなく接する姿を見習いたい」と微笑む。日本習字教育財団8段位(最高段位)。



ねんりんピックに書を出品した関山さん。書は、文字が描かれていない部分に「南無阿弥陀佛」の文字が浮かび上がる。

「これまで続けてこられたのは、これまでの時代だからこそ、手書きの良さが見直されていく」とのテレビ報道に「とても共感した」という関山さん。「書くことで、子どもたちには、きっと姿に元気をもらっている」と周囲への感謝に人柄がにじみ出る。

「自分の書は、まだまだつていう思いがあるので」と、

今も月3回、盛岡へ稽古に

には自宅に書道教室を開設。教室は本年度で39年目を迎える。えた生徒は100人を超える。かつての教え子が親になり、その子どもも通うようになつた。

「これまで続けてこられたのは、師、家族、生徒、たくさん的人に支えられてのもの。子どもから大人まで、上達していく生徒の姿に元気をもらっている」と周

通い、師のもとで腕を磨く。書道の魅力は「終わりのない難しさや、無心になれるところかなあ」と微笑む。

「デジタルの時代だからこそ、手書きの良さが見直されていく」とのテレビ報道に「とても共感した」という関山さん。「書くことで、子どもたちには、きっと構成力や集中力も養われている」とも。「楽しく書いてもらう」と私もうれしいし、書くことが大好きになつて、上達を感じてもらえばいいな」と思いを込める。

▼生産者、販売店舗、来訪者の3者にとって、良い企画になればという思いで、市内の産直・立ち寄りスポットを紹介するコーナー(第1回は道の駅にしねを企画しました(19頁参照)。ほうれん草ソフトや、もつちり豚まんは定定の人気だそうですが、個人的にはレストランのほうれん草揚げ餃子が、私の推しメニューです(智)▼「いつか表紙に」と係内で考えていた寄木棟參り。本号で掲載することができました。当日は、晴れたり吹雪いたり、安定しない天気でした。が、白装束を身にまつた子どもたちは元気いっぱいの笑顔で地域を練り歩き、見守る大人もつられて笑顔に。地域行事の良さがぎゅっと詰まつた素敵な伝統行事でした。(千)

■編集後記

●

【広告】この広告は、広告主の責任において市が掲載しているものです。

■ 痛みを和らげる
「八幡平中央整形」バス停そば
(八幡平中央 整形外科・内科クリニック)
漢方のあさひ薬局
八幡平市大更25-118-1 TEL.0195-75-2227